

## 元気くんとのお会い

桜木小・2 松下 すぐる

ある夏の夜、

「すぐちゃん、早く来てよ。クワガタがいるよ。」

と、お母さんがさげんでいた。ぼくは、あわててげんかんに走っていった。すると、そこには元気いうごくクワガタが一ぴき。これが、ぼくと元気くんがはじめて出会ったしゅんかんだった。元気にうごくから元気くん。名前はずぐにきまった。ぼくは、前に買っておいした虫かごをすぐにとりに行き、元気くんのもとにもどってきた。そして、おかあさんが元気くんを虫かごの中に、そつと入れてくれた。

「やったあ。」

こんどは、ぼくがさげんでいた。でも、本当のことを言うと、このときぼくは、元気くんをさわるのが少しこわかった。

ぼくは、おかあさんといっしょに、クワガタがよろこぶかんきょうや、食べものについてしらべることにした。クワガタは、木やはっぱがあるとところがすきだとわかった。すぐ

に、木とはっぱをさがしに行つて、虫かごの中に入れた。クワガタは、やさいやくだものを食べることがわかった。ちようど、生活科でそだてているミニトマトがあることを思い出して、すぐにミニトマトをとりに行つた。丸いままのミニトマトだと、元気くんがかみ切れないと思つて、ほうちようで小さく切つてあげた。つぎの日、こん虫ようのゼリーもかいに行つた。元気くんは、ミニトマトもゼリーもよく食べて、本当に元気いっばいだつた。

ぼくはこの日から、元気くんのいる虫かごを、まい日学校にもつて行くことにした。クラスのみんなにも見せたかったし、元気くんといつもいっしょにいたかったからだ。はじめて学校にもつて行つた日、元気くんはみんなから大人気だった。

「すごいね。かっこいいね。」

と、みんなが言つてくれた。ぼくはうれしくて、みんなに元気くんをさわらせてあげた。

けれどとつぜん、元気くんとおわかれする日があった。あさおきると、元気くんがしんでしまつていた。かなしかった。かなしすぎて、ぼくはだれにも言えなかった。元気くんがしんじやつたのは、ぼくのせいかな。元気くん、

ごめんなさい。と、ぼくは心の中で言つた。おかあさんも、

「日が当たるところにおいておいたから。おかあさんのせいではしんじやつた。」

と言つてないでいた。ぼくとおかあさんは、元気くんのことを思つて二人でないた。つぎの日、おかあさんといっしょにおはかを作つた。

「ぼくの家に来てくれてありがとう。」  
と言つて、大すきな元気くんとおわかれをした。

元気くん、会えてうれしかったよ。おせわできて楽しかったよ。短い間だったけど、いっしょにいてくれてありがとう。元気くんバイバイ。元気くんがんばつてね。ぼくも、これからがんばるからね。これからもおうんしていてね、元気くん。